

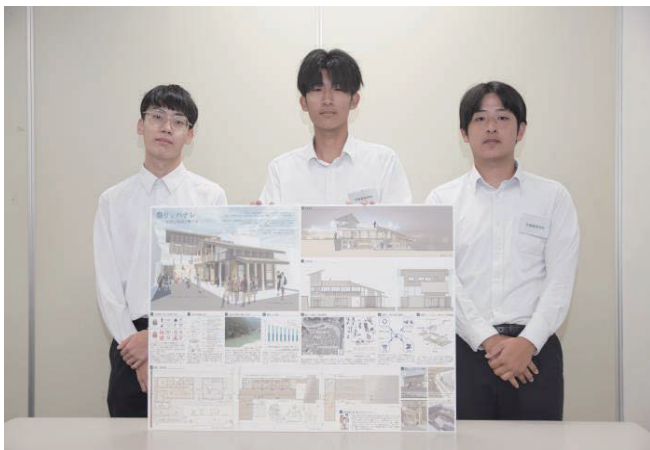


作品名 都会と地方をつなぐ -葛布と建築、伝統と現代の融合-

70年以上の歴史がある大井川葛布は島田市の伝統であるが、いまや作り手が消えつつある。本提案では、築100年以上の木造平屋建ての空き家をリノベーションし、歴史的な風景や文化を保存する。同時に都会と地方の二地域で居住を目指す人に対して、活躍の機会と場を提供している。一階の葛布工房では家族や住民たちが新たな関係性を構築することができるだろう。南面には既存の外壁を損なわない木製建具を前面に配し、まちとの連続的なつながりや調和を重視した。職場と居住空間を明確にフロアで分け、夫婦のはたらく拠点であると同時に地域とのつながりを生む地域にひらかれた空間とした。また、道路からセットバックすることで屋外からの視線を遮りつつ、採光や通風を得られるように計画した。この住宅が島田市の伝統的な文化を継承し、ここで暮らす家族や街の住民、二地域居住者に対して、広く開かれた住宅となることを願う。

静岡県立島田工業高等学校 チーム名 チーム島工

監督 滝口 諒先生 選手18名



作品名 祭りとハナレ・生活と地域を繋ぐ家

祭りは、地域の鼓動であり、人々を結びつける力を持っている。この家は、日常生活に祭りを取り込み、地域と住まいが繋がる「ハナレ」の空間を提案する。段差を活かした敷地構成により、住まいは町に開かれ、家族と地域が自然に交わる場となる。テラスや庭は、地域の人々が集い、交流を深める空間として機能し、祭りの準備やイベントが日常の中で行われる。この家は、「ハナレ」を通じて祭りと家族の生活が交差し、地域の伝統と未来を繋げる場を創り出す。この住宅が島田市の伝統的な文化を継承し、ここで暮らす家族や街の住民、二地域居住者に対して、広く開かれた住宅となることを願う。

静岡県立天竜高等学校 チーム名 建築系列有志

監督 藤井 邦光先生 選手3名



作品名 防災亭

「地域に開く戸建の住まい」とは、ただ単に店を営み地域との触れ合いを増やすことでなく、どのような形で地域との関わりを持ち、市民と触れ合っていくか、ということが大事だと考える。このような戸建では、一家が店を営むと共に防災についての情報を広めることで地域の人と協力し、子供が自由に遊んだり、カフェを嗜む以外にも地域の人と共に生活することができる。この敷地である静岡県沼津市には、沼津港で捕れる海鮮や深海魚水族館など、他県に誇ることができる歴史あるものがある。これらの地域との関わりを持つ建物の要素を取り入れて、「地域と触れ合い、助け合い、沼津の魅力に分ち合う」ことができる暮らしを目指した。そのため家族と地域の人を繋げるためにカフェと暮らしで使うキッチンを設けた。

静岡県立沼津工業高等学校 チーム名 沼津工業A

監督 吉田 健二先生 選手3名



作品名 登山堂

この住宅は、静岡県沼津市の香貫山登山道の入口に設計しました。香貫山は沼津の町の中に存在し、地域住民を始めとした多くの人が登山を楽しむ、地域に愛されている山です。この住宅の設計は、居住する家族と地域住民を香貫山登山に着目して繋げることができないか、という沼津市民ならではの発想から始まりました。テーマは「香貫山の「道」となる家」です。人々の日々の営みの動線に溶け込み自然に使われ、さまざまな繋がりを人々に与える、まさに「道」のような役割を持つ住宅にしました。居住する家族には地域コミュニティとの関わりをもたらし、地域住民には登山の準備を行ったり疲れを癒せる場所を提供します。また、傾斜した特徴的な外観は、「香貫山にある建築物」ではなく、「香貫山という場所の一部」として風景に溶け込めるよう設計しました。

静岡県立沼津工業高等学校 チーム名 沼津工業B

監督 吉田 健二先生 選手3名